

(別紙1) 令和5年度兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科インターンシップ一覧

(減災復興ガバナンス領域は領域単位、他の領域は研究室単位で実施します。

最終日にはレポートを作成し、発表していただきます。)

領域	研究室(教員氏名)	テーマ	内容	習得できる技能	受入人数・期間
災害科学領域	教授 永野 康行	安全なまちづくりに向けた建築構造物の構造設計をやってみよう	安全で安心なまちづくりにおいて、建築物の耐震性は非常に重要です。本実習では、簡単な建築構造物の構造設計を1から学習し、自分自身で設計をやってみます。後半ではコンピュータプログラムを用いた地震応答解析の基礎についても実習します。	簡単なS造の構造設計、地震応答解析の基礎	2名程度・9/9-9/13
	准教授 谷口 博	気象・気候変動のデータ解析をやってみよう	気象災害を理解し防災・減災に役立てるためには、過去の気象データの解析が欠かせません。本実習では、各種の気象データについて学び、実際にコンピュータプログラムを用いて気象・気候変動の簡単なデータ解析を行います。	各種気象データの取り扱い、気象・気候データ解析の基礎	2名程度・9/9-9/13
	准教授 平井 敬	地震の揺れを分析・予測してみよう	建築物や土木構造物の耐震設計、ハザードマップの作成等において、地震の揺れを適切に考慮することは重要です。本実習では、実際に発生した地震の揺れの記録を分析し、被害との関係を考察します。また、将来の地震による被害想定のための揺れの予測についても実習します。	信号処理・時系列データ解析法、地震動予測	2名程度・9/9-9/13
減災コミュニケーション領域	教授 阪本 真由美	災害の記憶継承と防災教育	阪神・淡路大震災からまもなく30年となります。本実習では、阪神・淡路大震災を経験した小中学校教員によるヒアリング資料を整理するとともに、被災経験を防災教育に活用するための教材作成に取り組みます。	阪神・淡路大震災に関する知識	2名程度・9/2-9/6
	教授 浦川 豪	自分でハザードマップ(マイハザードマップ)を作成してみよう!	各自治体においてハザードマップが住民に公開されています。自分の住んでいる場所を中心としたハザードマップが欲しいと思っている住民も多いと思います。それならば自分自身でマイハザードマップを作成してみましょう。本実習では、オープンデータをGIS(地理情報システム)で処理し、オリジナルのハザードマップを作成する実習とします。	ハザードマップに関する知識、地理空間情報に関する知識、GIS及びクラウドGISの操作技術	2名程度・9/2-9/6
	准教授 松川 杏寧	安全・安心な避難所運営マニュアルを作ろう	急に大勢の見知らぬ人との共同生活が始まるのが避難所です。そこから自分たちの家や生活を立て直すためには、安全・安心して過ごせる避難所が必要ですが、見知らぬ人たちばかりでどうすればよいのでしょうか。本実習では、避難所設計と運営について考え、マニュアルを作成します。	避難所運営に関する知識	3~5名程度 8月26日~9月4日の間のどこか5日
減災復興ガバナンス領域	教授 青田 良介* 教授 馬場美智子 准教授 澤田 雅浩 准教授 紅谷 昇平	減災復興とまちづくり	自然災害が発生すると、地域は甚大な被害を受け、人々の暮らしにも大きな影響を与えます。このインターンシップでは、まちやむら、そこに暮らす人、そのすまいや生活に着目し、地域の脆弱性、住民参画による事前対策(防災まちづくり)、災害発生後の復興について学びます。 阪神・淡路大震災等の被災地の復興状況についてフィールドワークを実施し、復興プロセスに関わった方々からのお話も聞き、理解を深めます。当研究科の教員や院生も交えたグループディスカッションを行うなど、望ましい減災復興まちづくりの姿を考えます。	1)自然災害による都市・地域への影響を理解する。 2)被害を受けた地域の復旧・復興の適切な方法論、そして被害を減じるための計画論について理解する。	3名程度・9/24-9/27